

鳥取県母子保健対策協議会 母子保健対策専門委員会

■ 日 時 令和7年1月16日(木) 午後2時～午後2時50分

■ 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町
鳥取県西部医師会館 米子市久米町

■ 出席者 22人

〈鳥取県健康会館〉

清水会長、岡田克・石谷・高橋・松本各委員

鳥取県子ども家庭部・家庭支援課：岡田課長補佐

鳥取県健康対策協議会事務局：岡本事務局長、岩垣次長、田中係長、廣瀬主事

〈鳥取県中部医師会館〉

松田・井奥・花木・橋田・木山各委員

鳥取県子ども家庭部：小倉参事監

〈鳥取県西部医師会館〉

難波・岡田隆・井庭・前垣・岸岡・河津各委員

【概要】

- ・令和5年の出生数は3,263人で前年より489人減少している。
- ・令和5年度の1歳6か月児健診受診者数は3,360人で受診率は96.2%、3歳児健診受診者数は3,816人で受診率は98.6%であった。
- ・令和5年度産後健康診査結果は、産後2週間目は受診者数2,757人、要精検3人、要治療3人（精神科への紹介数は6件）。産後4週目は受診者数3,064人、要精検6人、要治療3人（精神科への紹介数は4件）。
- ・令和5年度の鳥取県の全年齢における、人工妊娠中絶実施率は6.5%（全国5.3%）で前年より0.1ポイント増加した。鳥取県の20歳未満における、人工妊娠中絶実施率は4.7%（全国3.8%）で前年より1.8ポイント

増加した。総数では、全国ワースト6位であった。

- ・令和5年度のガスリー検査による精密検査対象者は、6人（前年度20人）、確定診断は、先天性副腎過形成症の疑い1名、先天性甲状腺機能低下症の疑い5名である。タンデムマス法検査による精密検査対象者は1人（前年度3人）であった。

挨 拶（要旨）

〈清水会長〉

母子保健対策は、これからを支える子どもたちを育てていくための重要な分野である。本県における母子保健事業については、従来から充実した取り組みがなされている。本日は、今後に向けた乳幼児健診体制等の議題がある。しっかりとした

ご審議をよろしく願います。

〈難波委員長〉

新型コロナの影響で滞っていた事業を粛々と進めていかなくてはならない状況であり、昨今はコロナ、インフルエンザ等の感染症の流行もあり皆様大変お忙しいところと思う。進行中である、新生児のマススクリーニングや5歳児健診等の様々な小児の事業について、遂行していかなくてはならないので皆様のご協力をお願いする。本日はよろしく願います。

報告事項

1. 母子保健指標推移について：

岡田県家庭支援課長補佐

鳥取県と全国を比較した母子保健指標の推移によると、出生者数は3,263人で前年より489人減少している。合計特殊出生率は、1.44%で前年より0.16ポイント減少している。

乳児死亡数は10人、乳児死亡率は3.1%（全国1.8%）で全国ワースト1位であった。その内訳は新生児死亡が3名、早期新生児死亡が2名であった。これまで乳児死亡率が高いと全国順位も低い結果であったため、集計方法が変わっている。

周産期死亡数は12人で前年より1人増加、周産期死亡率は3.2%（全国3.3%）であった。

2. 令和5年度市町村母子保健事業実施状況について：岡田県家庭支援課長補佐

妊娠届出数（地域保健・健康増進事業報告）は3,180件であった。満11週以内の届出は2,900件、全体の91.2%（前年93.3%）、満12～19週の届出は252件、全体の7.9%（前年5.9%）、満28週以降の届出は7件、分娩後の届出は2件であった。妊婦訪問指導の実人員は126人、未熟児訪問指導の実人員は132人であった。

・乳幼児健康診査受診状況

3～5か月健診の対象者数は3,509人、受診者数3,207人で受診率は91.4%、6～8か月健診は対象者数3,519人、受診者数3,456人で受診率98.2%、9～12か月健診は対象者数3,868人、受診者数3,394

人で受診率87.7%であった。

1歳6か月児健診の対象者数は3,492人、受診者数3,360人で受診率は96.2%、健診結果要精密者は123人、精密検査受診者は96人で受診率は78.0%であった。3歳児健診対象者数は3,870人、受診者数は3,816人、受診率は98.6%、健診結果要精密者は611人、精密検査受診者は456人で受診率は74.6%であった。いずれの市町村も健診未受診者に対して、再通知や受診勧奨の電話や訪問を行っており、子どもの発達や家庭環境状況の確認を行っている。

3歳児健診における視力検査の報告として、眼科要精密検査対象者は401人、眼科精密検査受診者数は308人で受診率76.8%であった。

・その他、市町村母子保健事業に関して以下の報告
①3歳児健診で親が「育てにくさ」を感じている
児の受診結果

「いつもそう思う」と回答した人は、3,816人中49人で、1.3%（前年1.0%）であった。そのうち1歳6か月児健診で異常なしの者は21人（42.9%）、何らかの指摘があった者は23人（46.9%）であった。

②5歳児健診（発達相談）実施結果

鳥取市、倉吉市、境港市が実施する発達相談（健康相談）は、相談者数計76人、うち要精密検査・治療中・観察中は32人（42.1%）であった。

米子市と15町村が実施する5歳児健康診査は、対象者数668人、受診者639人（受診率95.7%）、要精検は90人（14.1%）であった。

③妊娠届出時の妊婦の喫煙状況は55人（1.71%）であり、妊娠を機に禁煙をされた者は101人（3.2%）であった。同居家族の喫煙状況に関しては「喫煙有り」の回答が1,010人（31.4%）であり、家族の妊娠を機に禁煙した者は28人（1.30%）であった。

④産後健康診査結果

産後2週目：受診者数2,757人のうち、異常なし2,165人、経過観察586人、要精検3人、要治療3人（精神科への紹介数は6件）、エジン

バラ産後うつ病質問票点数が9点以上となった方は338名（12.3%）。市町村の支援必要性「有」となったケースに対する支援としては、保健師訪問451件、養育支援訪問事業7件、産後ケア事業129件、産前産後サポート事業20件、その他125件であった。

産後4週目：受診者数3,064人のうち、異常なし2,593人、経過観察462人、要精検6人、要治療3人（精神科への紹介数は4件）、エジンバラ産後うつ病質問票点数が9点以上となった方は211名（6.9%）。市町村の支援必要性「有」となったケースに対する支援としては、保健師訪問459件、養育支援訪問事業8件、産後ケア事業149件、産前産後サポート事業9件、その他181件であった。

3. その他

○人工妊娠中絶の推移について：

岡田県家庭支援課長補佐

令和5年度の鳥取県の全年齢における、人工妊娠中絶実施率は6.5%（全国5.3%）で前年より0.1ポイント増加した。鳥取県の20歳未満における、人工妊娠中絶実施率は4.7%（全国3.8%）で前年より1.8ポイント増加した。総数では、全国ワースト6位であった。

○先天性代謝異常検査及び精密検査の状況：

岡田県家庭支援課長補佐

令和5年度のガスリー検査による精密検査対象者は、6人（前年度20人）、確定診断は、先天性副腎過形成症の疑い1名、先天性甲状腺機能低下症の疑い5名である。タンデムマス法検査による精密検査対象者は1人（前年度3人）であった。

報告事項

1. 県内の乳幼児健診における健診体制について：

岡田県家庭支援課長補佐

乳幼児健診は市町村事業であることから、市町村の責任において診察医の確保を行う必要があるが、全県で健診医の高齢化等に伴い、市町村単独で医師を確保するための交渉を行うことが困難に

なっている。今後の中長期的な持続可能性を念頭に置いた乳幼児健診の体制について、下記のとおりとした。

1. 実施体制について

- ・各市町村の乳幼児健診の実施体制及び健診医の先生方（必要時にご協力をいただける先生を含む）の情報を一覧化し、各市町村・保健所・圏域医師会等の関係機関で共有することにより、健診医の不足枠の調整や急な代打対応の調整が円滑化を図ることとしてはどうか。
- ・中長期的な対応として、乳幼児健診を病院で実施する方法や、園医による5歳児健診の実施等について、実施体制や具体的な方法について継続的に検討していく。
- ・委託単価の統一について、各市町村と協議を進めていく。

2. 健診の実施方法について

- ・3歳児健診については、小児科医の先生のほか内科医の先生にもご協力をお願いしていくこととしてはどうか。
- ・5歳児健診については、各市町村における実施方法の違い（実施回数、所要時間、ピックアップ方法、問診項目、医師の診察方法、保健師の役割等）を明らかにした上で、健診に係る医師の負担軽減や効率化の観点から、可能な限り標準化を図ることとしてはどうか。
- ・5歳児健診において、SDQや保護者の希望によるピックアップ方式を採用している市町村については、国の動きも見据えつつ、対象者全員に問診を行う体制の整備を目指していくことが望ましいか。

3. スキルアップ研修について

- ・3歳児及び5歳児健診における診察方法等について、小児科医及び内科医の先生方への研修会の実施（県事業）を検討していく。
- ・5歳児健診における各関係機関の役割や、保健師・保育士・福祉専門職のための人材育成（スキルアップ）を目的とした研修会（県事業）を実施していく。